

『黄庭内景經』にもられた、諸身神の具体的なことについて、発表時に行うが、このなかには、身神の名称、字、部位、職能までがうたわれ(第七、八章)、頭部九宮(泥丸宮など)さらに三部、八景、二十四神説という複雑なものにと進んでゆく。

(順天堂大学(浦安)・産婦人科)

## 『本草和名』所引の古医学文献

真 柳 誠

現存する日本最古の本草書『本草和名』は、言うまでもなく本草学・国語学・字書学等の歴史研究上に不可欠の文献である。とりわけ本書所引医薬文献の大多数はすでに逸伝しているため、中国中世以前の医薬文献とその日本への伝入状況を把握する上で本書は『医心方』『日本国見在書目録』『倭名類聚鈔』と同等の価値を有している。しかしながら本書所引医薬文献の全体に言及した報告はかつてなく、さらに現行の多紀元簡校刊本とその影印本は校刊時の所改と誤刻が多く、調査研究の底本に必ずしも適当ではない。

演者らは最近、江戸幕府紅葉山文庫旧蔵の原本を影写した森立之旧蔵本を台北故宫博物院にて親見し、そのマイクロフィルムを入手した。そこで当書を底本に引用書名・人名を調査し、各々に文献学的検討を加えた。よってその概

要を以下に簡報することとする。

なお書名・人名の記載箇処は紙幅の関係上割愛し、各々の出現回数のみ( )内に示したが、当書巻頭凡例中の書名・人名は引文ではないのでこれに計上していない。また本報では当書の俗字・筆癖字のみ正字・当用漢字に改め、異体字・通用字・訛字等は原則上そのまま採録した。さらに当書凡例および諸目録類・『医心方』等より記載書名の省略・別称が明瞭なものは、その必要最少限を「」内に補足した。

## 一、本草・食経類

### ①『本草経集注』『新修本草』

本経(一)。別録(一)。

陶景注(二五六)、陶注(二)、陶景(三)、陶(一)、隱

居本草注(一)、隱居本草(一)。

蘇敬注(一九七)、蘇注(一)、蘇敬(八)、敬(一)。

### ②諸家本草書

雷公採藥吏(一)。本草拾遺(三)、拾遺(三三)。本草

稽疑(一)、稽疑(二)。「本草」疏文(一五)、文(一)、

疏(五)。「本草」雜要訣(八一)、雜要交(一)、雜要(一)。

〔雜注本草〕蔣孝苑注(一)。積藥性(一〇一)、積藥(二一)、精藥性(一)。大清經(三七)、太清經(二五)。本草(一)。藥対(一)。

### ③諸家本草音義書

甄立言〔本草〕青義(一)、甄立言(一)。楊玄操音義〔本草注音〕(七)、楊玄操(二六六)、楊畜操(一)、楊玄摻(一)、楊玄(一)、楊(三)、「楊玄操」注(一)。仁詒音義〔新修本草音義〕(九)、仁詒義(一)、仁〇(二五八)、二詒(一)。

### ④諸家食經書

神農食經(一)。馬琬食經(一)、馬琬(二)。崔禹錫食經(一)、崔禹食經(一)、崔禹(一三七)。孟詵食經(三)、孟詵(三)。膳夫經(一)。新撰食經(一)。七卷食經(四一)、七養食經(一)。食經(一)。

二、医方・服食・養生類

### ①魏晋方書

華佗方(一)。葛氏方(一)。

### ②南北朝方書

范汪方(三三)。小品方(一一)。那繁論〔刪繁論〕(一)、

